

昨年度WT会議での主な意見と令和6年度以降の取組の方向性

資料2

昨年度WT会議 (7/4,12/27)での主な意見

● 事業実施の方向性

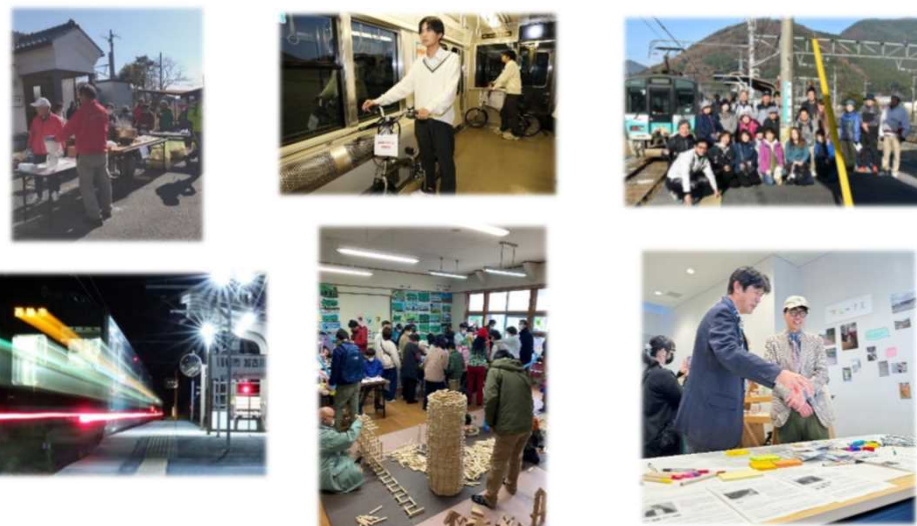
- ・ 利用促進策は、すぐに結果が出るものではなく、毎年継続した実施が必要
- ・ 鉄道の維持には、日常利用の増加が必要であり、イベントを通じた働きかけが非常に大事である。

● 気運醸成

- ・ J R加古川線の利用は自分だけのためではなく、公共交通に対する投資という感覚を住民で共有していきたい。
- ・ 地域の企業には引き続き、出張の際においてJRを利用するよう継続的に呼びかけていく。
- ・ 沿線周辺地域以外では、加古川線をあまり自分事として捉えられていない面もあるので、住民に向けた啓発活動を行っていきたい。

● その他

- ・ 『地域を残す』ためにはどうすればよいかといった視点が大切
- ・ 高校の統廃合、中学校の部活動の地域移行で、公共交通は重要性が更に増してきている。
- ・ 来年度は加古川線全線開業100周年にあたる節目の年であり、路線の大切さを改めて共通認識し、未来につなげるきっかけとしたい。



令和6年度以降の取組の方向性

● 鉄道利用の気運醸成と利用促進への支援

高校生等の通学、沿線企業従業員の通勤などの日常利用促進や、地域住民が主体となった駅周辺の賑わいづくりに対する支援を通じて、鉄道利用の気運醸成と継続した利用促進につなげる。

● イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化

各団体が実施するイベント等での相互連携、他の団体の取組とのコラボ、チラシの配布、記者発表等の協力体制を強化する。

● 加古川線全線開業100周年を契機とした利用促進策の展開

特に、令和6年度は加古川線全線開業100周年の節目であることから、各団体が行う事業に、「ありがとう&おめでとう加古川線全線開業100周年」のキャッチフレーズを掲げ、JRと連携して、さらなる利用促進を図る。

● 統一したキャッチフレーズによる利用促進気運の醸成 (R7以降)

地域住民に本当に興味を持ってもらい、また、利用促進の取組を一体感のあるものとするため、統一したキャッチフレーズを作成し、あらゆる機会を通じて発信する。

